



夏 夢 木 跡 警 察 の 終 っ わ り

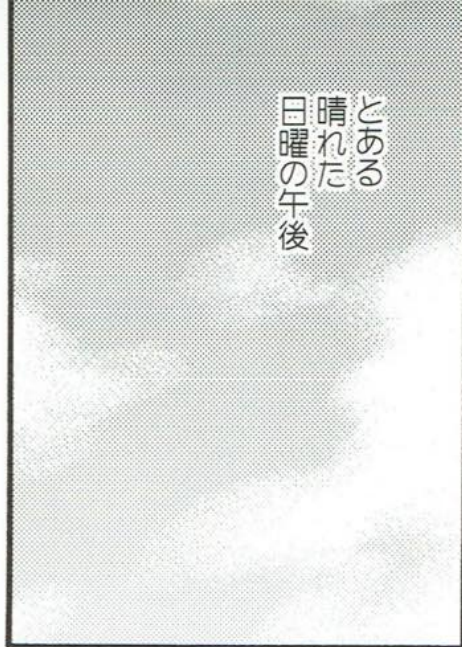


PRESENTED BY
こりすや
KORISUYA



俺は
駅前に
自転車を止め

待ち合の
場所に
歩いて向かい



とある
晴れた
日曜の午後



なーに
やってんのよ
キョン!

遅いわよっ!!



そんな
ワケで



何って
時間通りに...

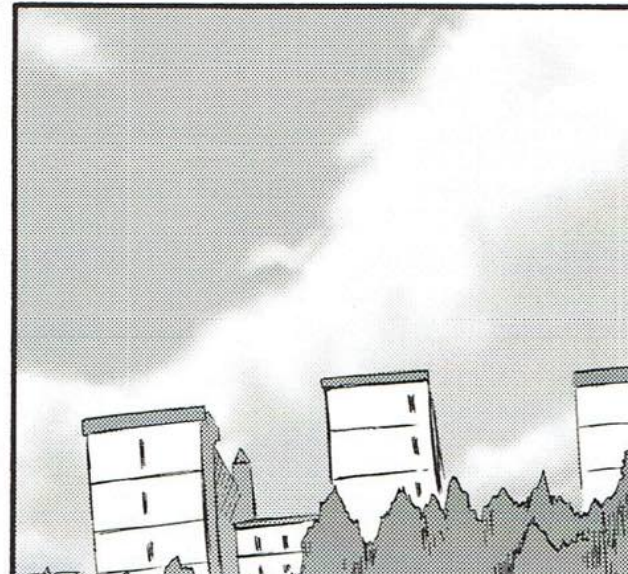
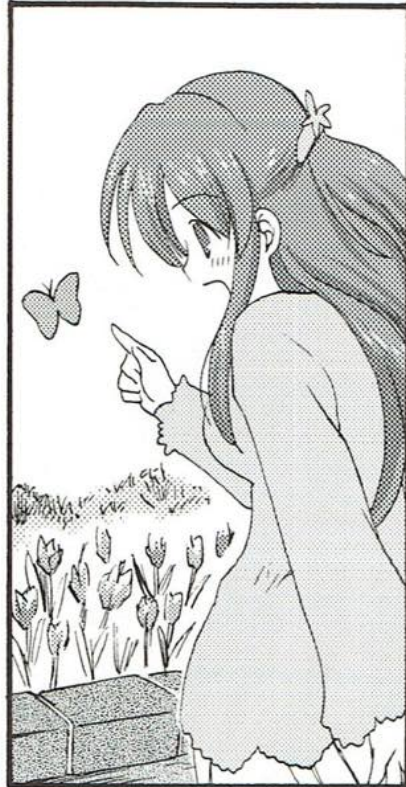
みんなもう
来てるのよ!

今日は
オゴるのよ!



今日も
みんな仲良く
不思議探じ

わあ...





だから

それが
日常なんだよ！

何事も
無いのが
一番！

誰か
「イツに
わからせて
やってくれ！

「イツに...」



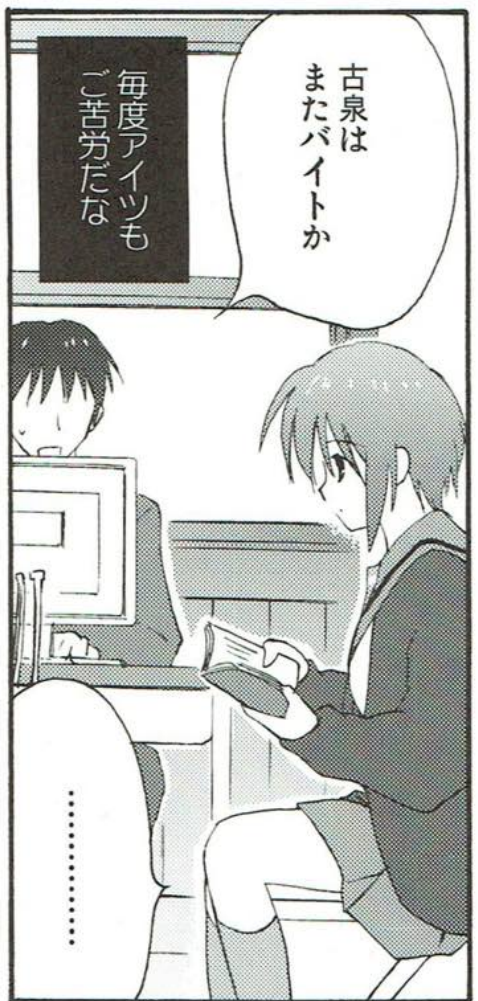
新しく買った
衣装があるの！

着てくれる
わよね！

ふええっ？



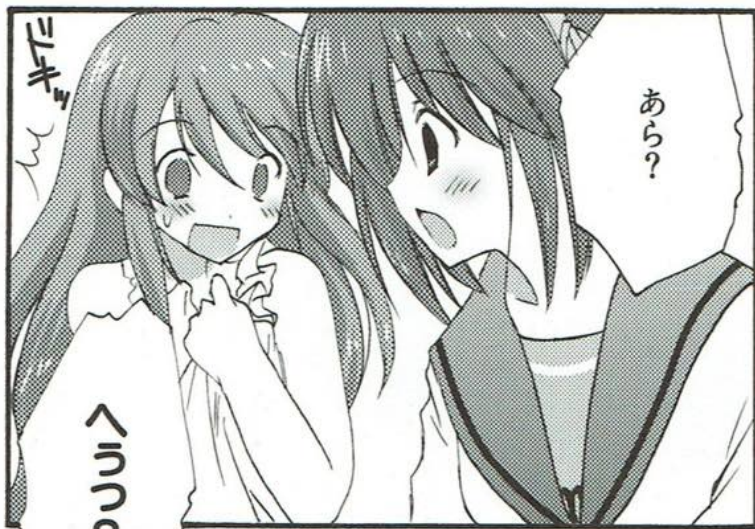
あっ
そうだ
みくるちゃん！



古泉は
またバイトか

毎度アイツも
ご苦労だな

.....



あら？

「いつに...」



さあさあ！
とっとと
脱ぐのよ！

キョんくん
見ないでえええ

見て
ません...

ぎゅ







アしは
わざと
やつてんのか?

そんな
こんなで

何日か
過ぎ――



朝比奈さんは
ハルトの行き過ぎた
セクハラに耐え



超能力少年
古泉は
大活躍し



思うような
成果が得られず

ハルトの
不機嫌は募る
一方だった



長門は
黙々と
読書をしている



そんな日々が
延々と
続いていくのかと
思っていたが...



じゃあ
例えば

「キョンが
北高に合格した」
という事実が
成立するためには……

「合格するための学力」
「試験時間に合わせて
会場にいた」
「試験時の体調」など



いくつかの条件が
そろって
生まれた結果
なのよ



はあ……

つまり何か
起こるのは

そのための
条件がそろった
瞬間に発動するの！

この世界で
起きる物事は
すべて

必然なのよ！



だから
とりあえず

何かが
起こりそうな
魔術を
試してみることに
したのよ

だからって
こんな
オカルト
まがいな…



やってみなきゃ
わからない
でしょ！



あらっ！

この魔術
イケニエが
必要なのね



宇宙人か
未来人か
超能力者が
出てきたら
儲けモノってやつよ

頼む…

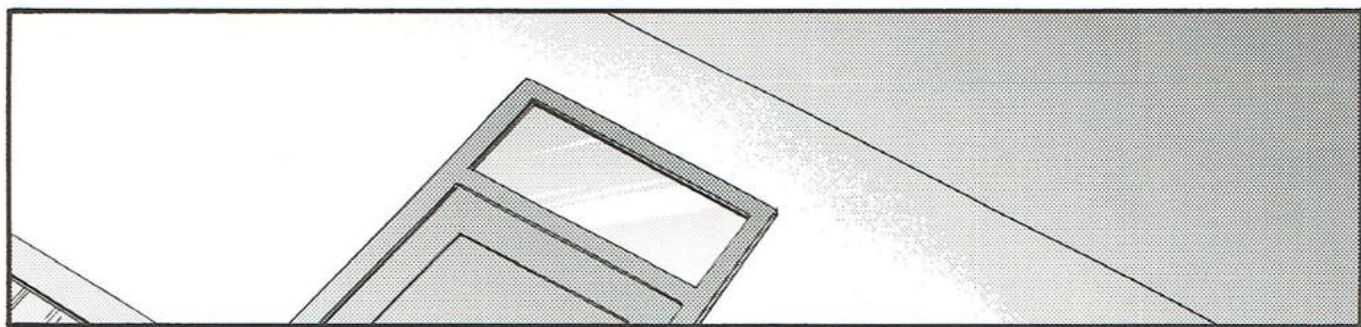
今すぐ
後ろを
振り返って
くれ……

今なら
3点セットだ…



バカバカしい

誰が
そんなもの…





朝比奈みくる
長門有希
そして僕が
一堂に会したのは

涼宮さんが
望んだからに
他ならない

けれど……



彼女の
言う通り

偶然だと
思っていることは
すべて必然か



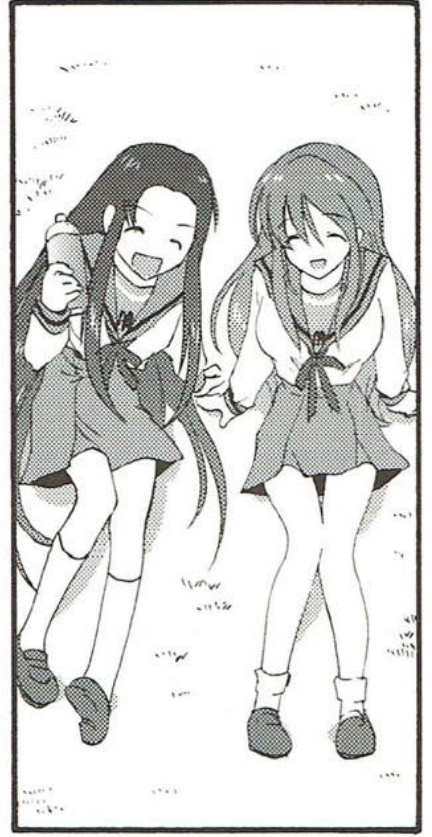
はたまた
その逆か



そこに
貴方が存在している
ことも
お忘れ無く

?







…

そうね…



まだやってくれるのか

だいたい
お前は

具体的に
どんなものが
見たいんだ…



中学の時校庭に
ミステリー
サークルを
描いたら
怒られたから

他にいい場所は
無いかしら



例えば

ここまで
手を尽くして
ダメだった分

どうせなら
飛びっきりの
すごいのが
いいわ!



世界が
一瞬にして
壊れてしまっ
くらいなの!

?!



いつだったか
変な夢を
見たわ

あんとと
2人きりで
夜の学校にいる
夢よ



ヤバイ
重症だな

さっさと
病院へ
行ってくれ



そういえば…



え…
それって…



—
!!



巨大な
バケモノが
校舎を壊して
暴れ回っていて

あたしが
面白がって
いたら

あんたが突然
ポニーテールが
どうか
言い出して…

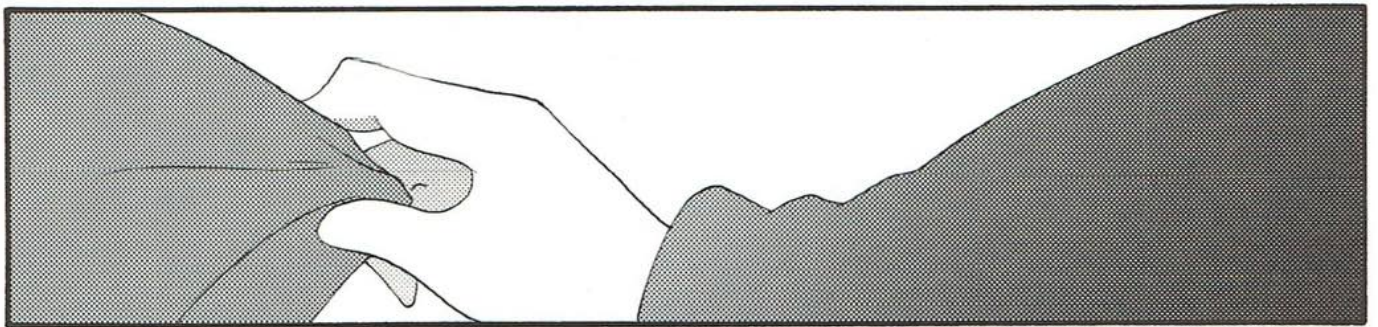
それで
最後に…



それなら

俺はその
望みを叶えてやれる
方法を
知ってるんだぜ

あいつ
なんか
知らないやない





— ?

何を……



今から
涼宮ハルヒに
加えて

貴方も
観察対象として
強化する……



貴方は

何か、を

しようと
している……



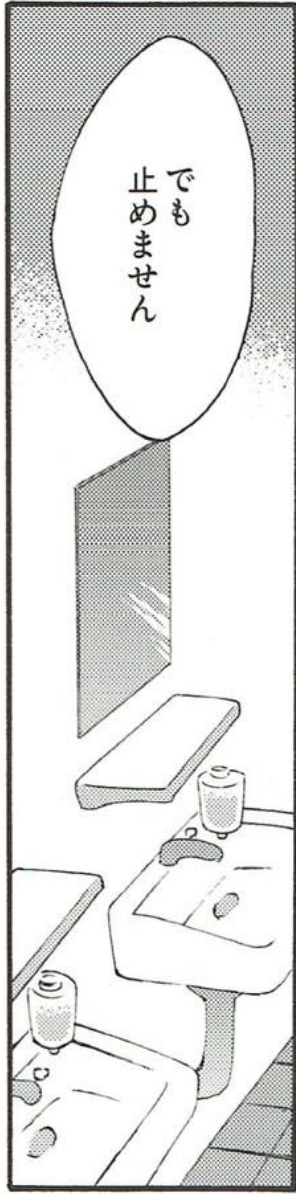
それより
その手を
離してくれ

ついてくる
つもりか



?
何を
言ってるんだ?

俺は別に
何も……



でも
止めません



僕は
もう少し

皆さんと
楽しく過ごして
いたかったのですが



なんなんだ
一体…



残念ですね



古泉！



貴方が
行動を
起こせば

そこから
新しい世界が
始まるだけです



あ…

まあ…

考え事
ですかあ？



キョンくん？



わー

違います！

今日のお茶
美味しく
なかつたのかな…



よかったら
なんでも
相談して
下さいね

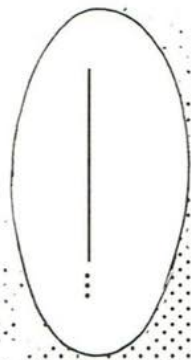
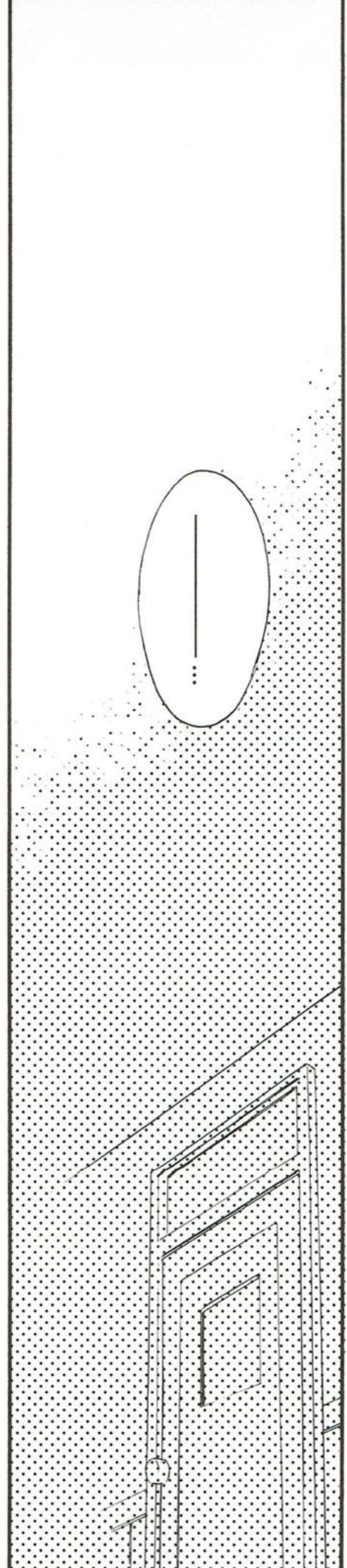
癒される…

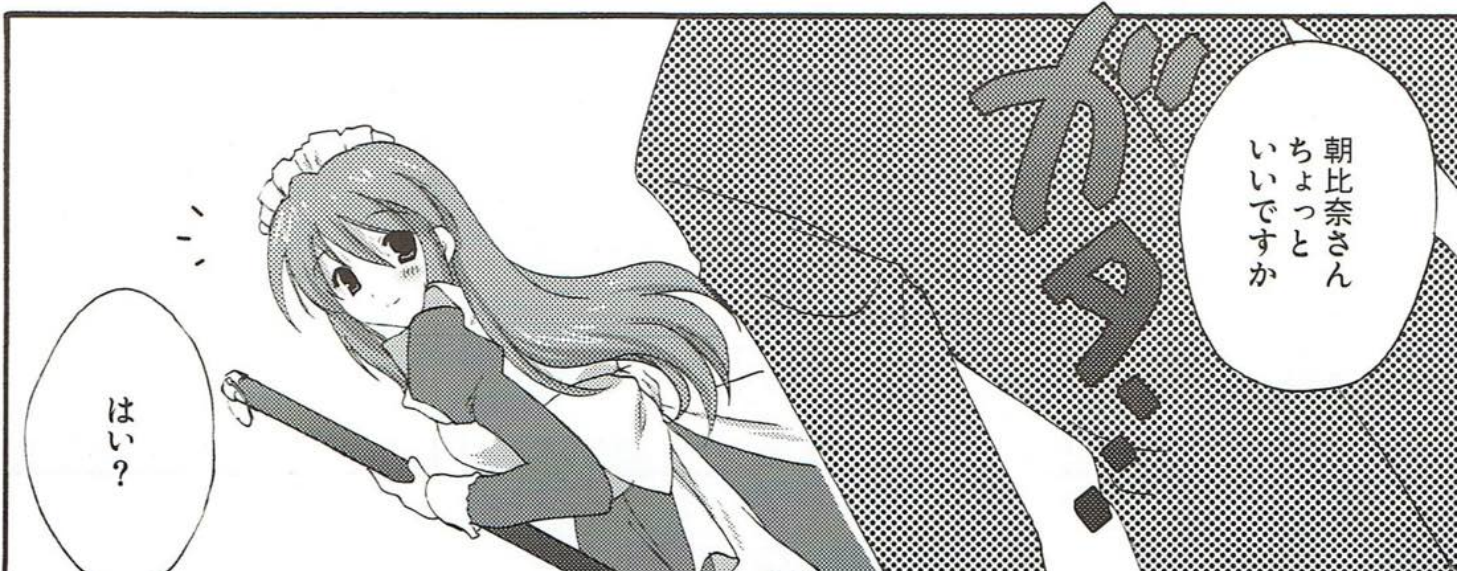
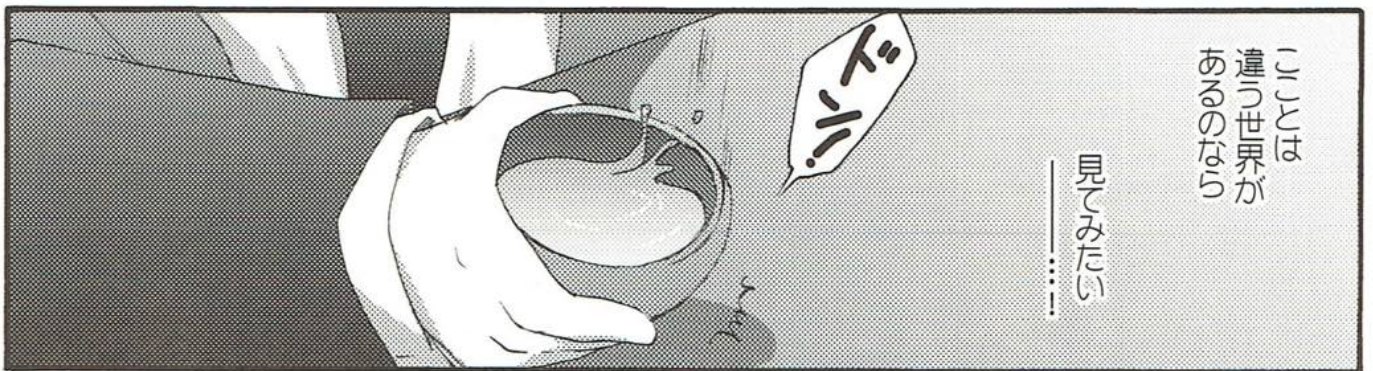


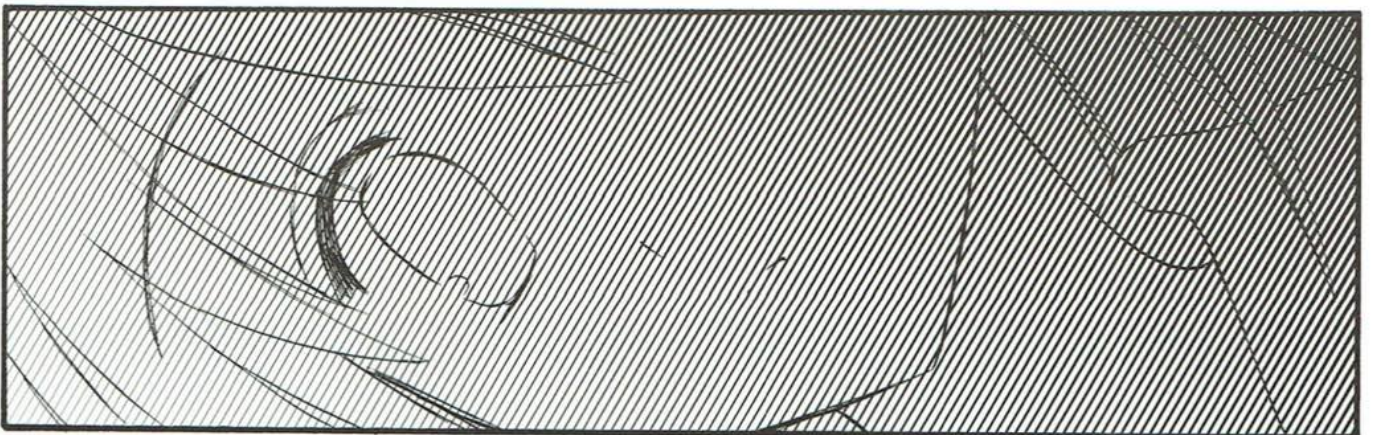
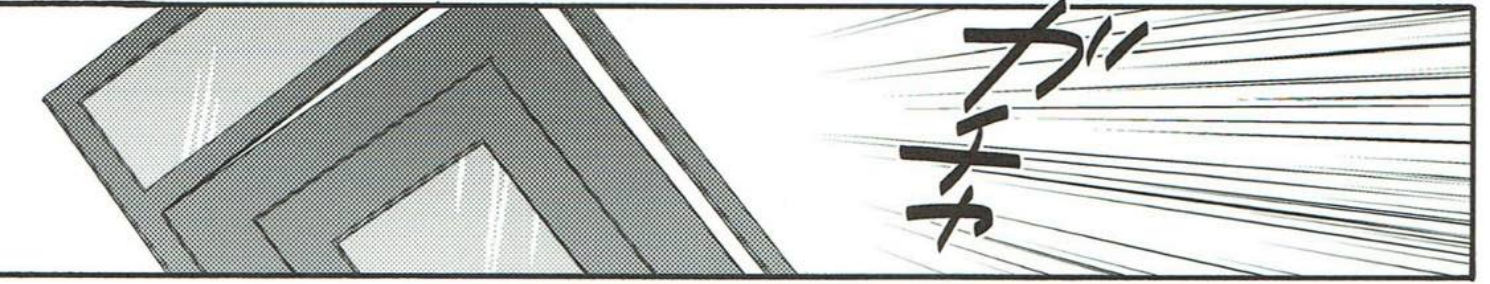
長門も
古泉も
何を言ってるんだ

俺は
誰より
日常を愛する
男だ！

この世界を
変えようなんて
酔狂なことは
思わない







これで
今夜は——…

いえ
別に…

古泉のマネが
したくなった
だけです

?

?
どうしたん
ですか?

急に
顔を近づけて
きたりして

あ、
涼宮さん

……

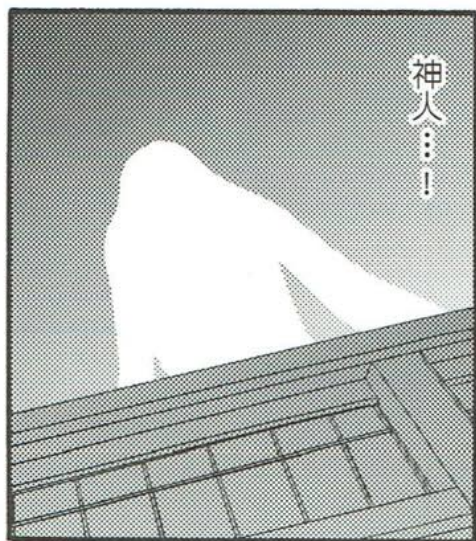
……
キラ……

……



早く起きなさい!!!

おぐあ



神人……!



あの時と

同じ……!

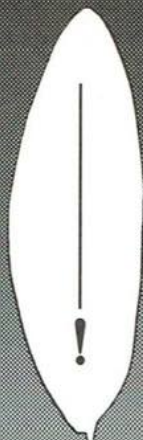


すごい……
すごいわ
これ……!

前に見た夢が
現実に
なっちゃった
みたい!

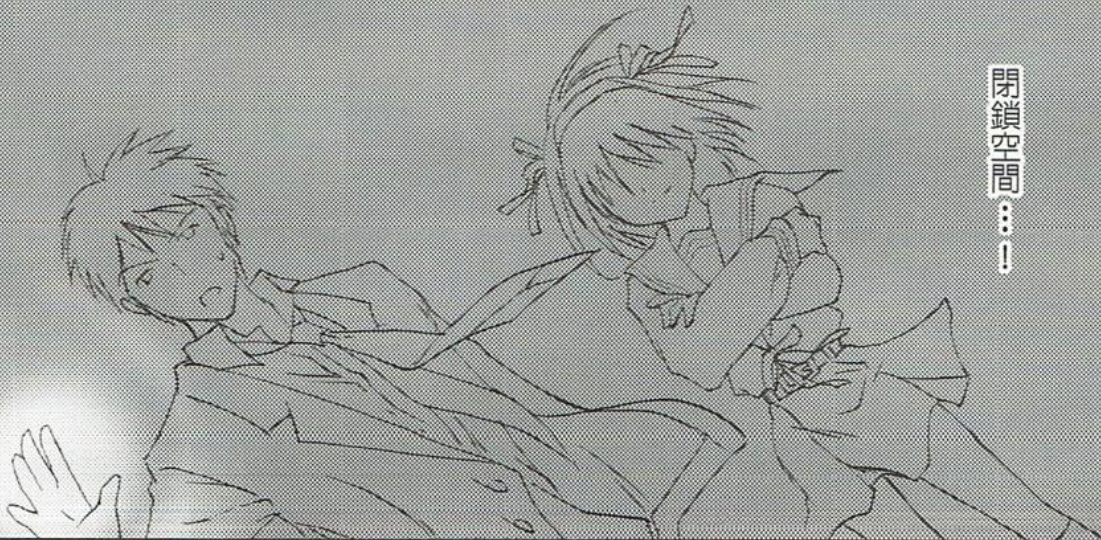


夜の学校!



閉鎖空間……！

ここには
俺たち
2人だけ……



今なら
いい画が
撮れそうだわ！

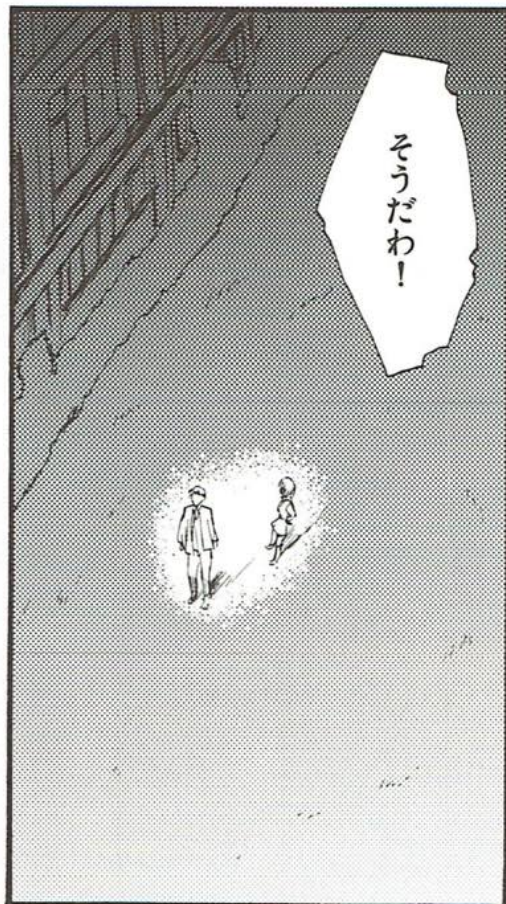
デジカメ
取り
行かないや

お……おい
勝手に
1人で行くな

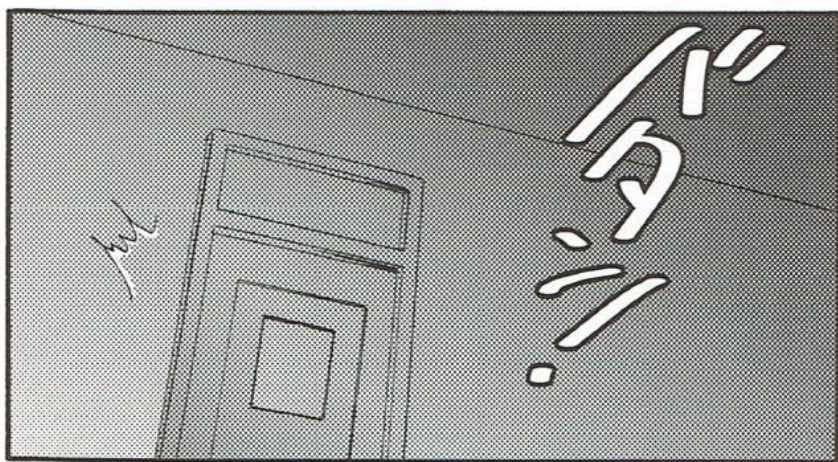
早く
来なさいよ



そうだわ！



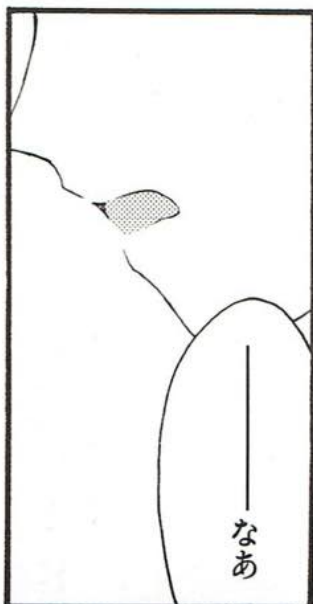
バ
タ
ン



何よ



——
なあ



あ！
あったわ

まだコレ
撮れる
わよね？



俺たちが今
ここに
いるのって

単なる
偶然だと
思うか？

はあ？

お前
ひとり
じゃなくて

同じ年に
生まれて

同じ学校で
同じクラスに
なって

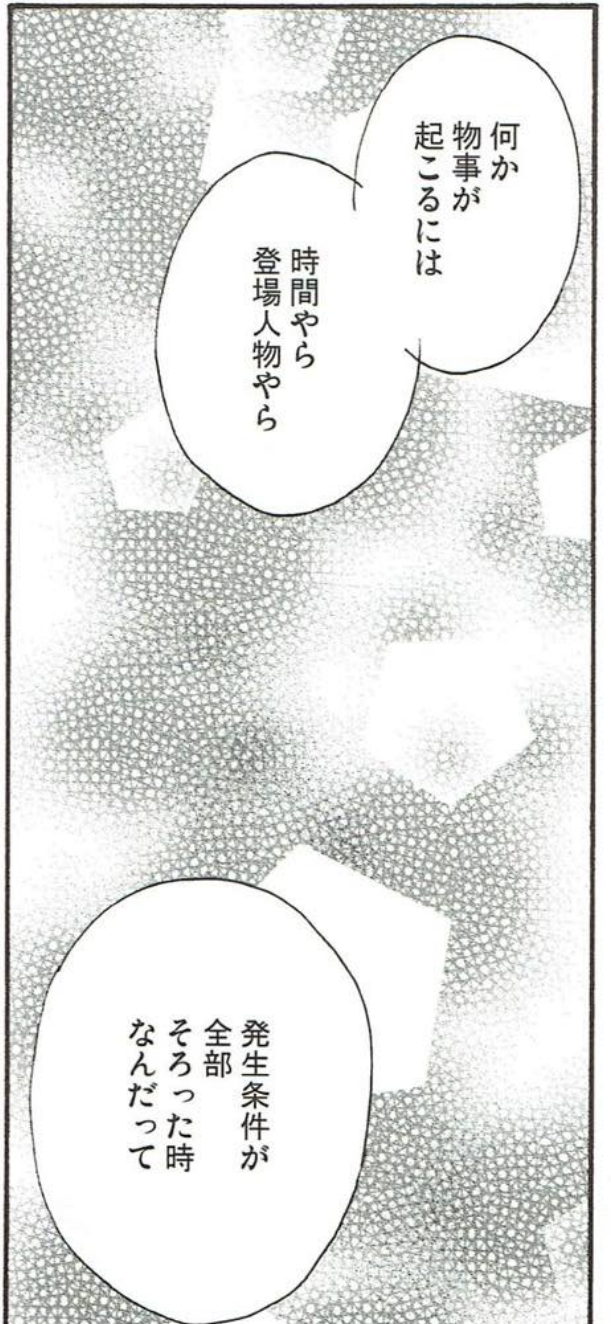
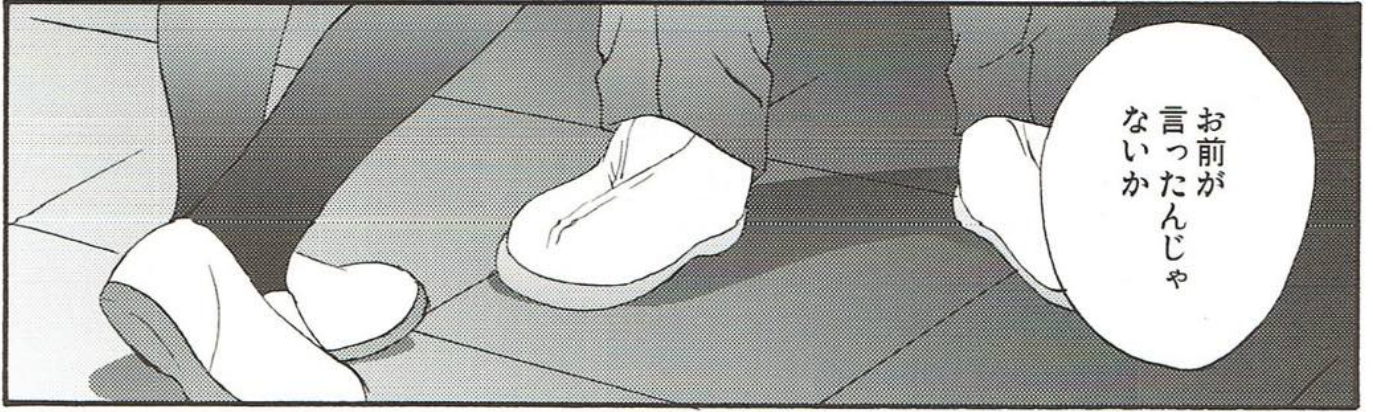
それが
全部

偶然だったと
思うか？

俺と
涼宮
なんだぜ？

ここに
いるのは

.....



…
放課後…

みくるちゃんと
キスしてた
じゃない…

していないっ

あれは
芝居だ

お前の出方を
確認したかった
だけだ

もう
これからは

自分の望み通りの
世界を
作ろうとする
必要はない

長門も
古泉も
ハズレだ

俺が
見たかった
世界は—

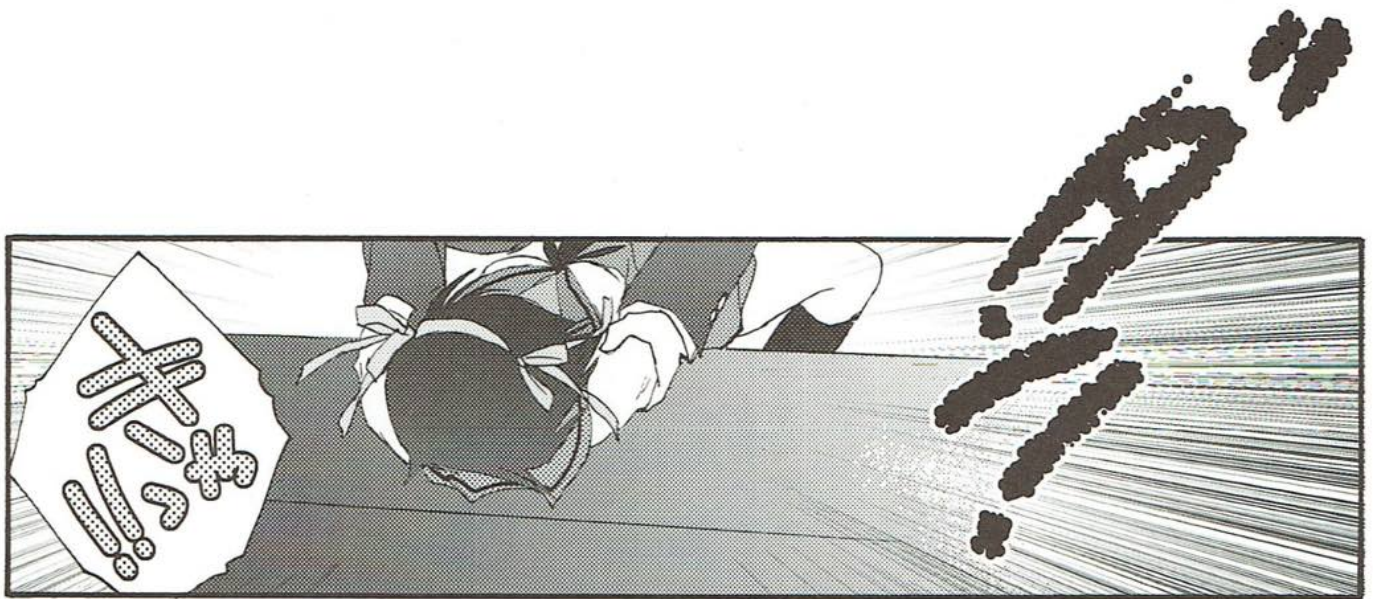
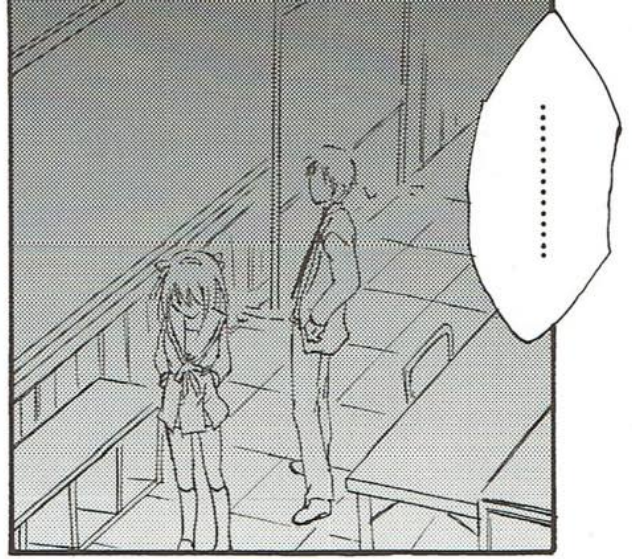
2人きりの
世界じゃない

俺は
お前のことが
好きだから

元の世界で

ハルヒと
2人で
見る世界だ

もう
変な心配は
するな





ちよっとお

やめなさ...



ほまじ



あ...

ぐう



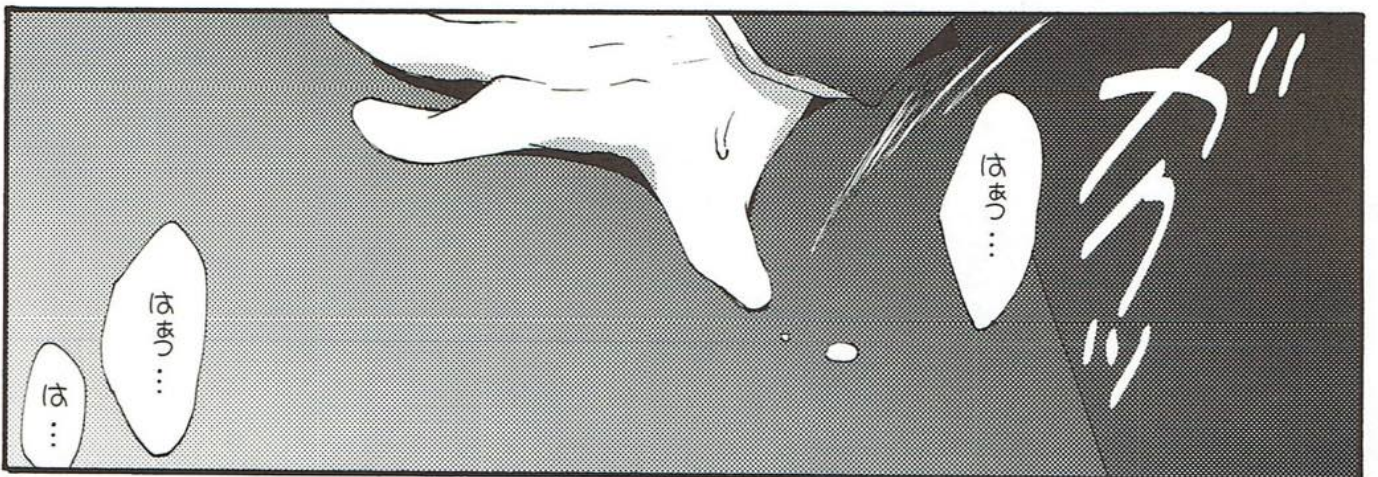
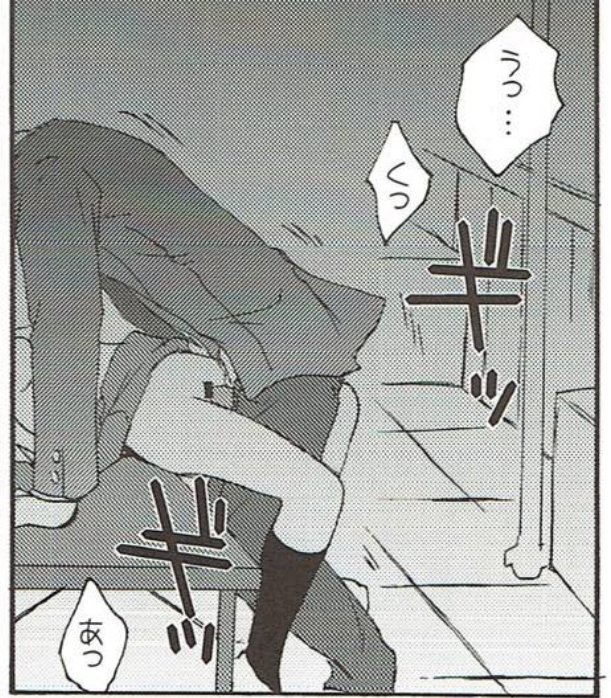
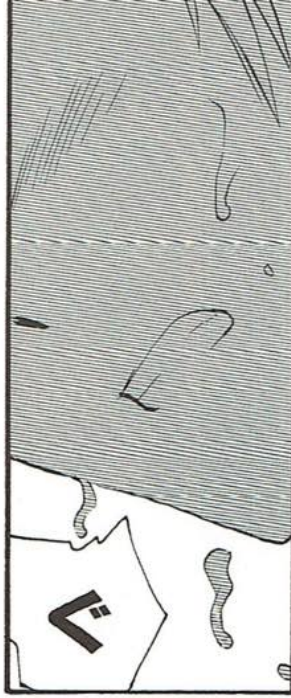
窓の外の
神人なんて
関係なかった

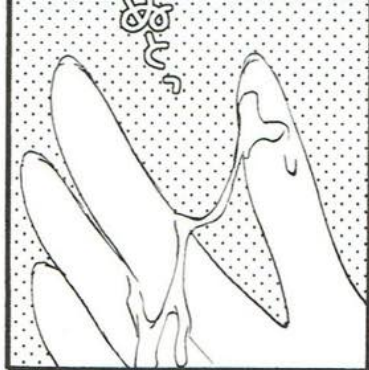
ハルヒといれば
危害を加えられる
可能性も低い
だろう...

ふ...

あ...

あ...







これが
ツンデレか!!



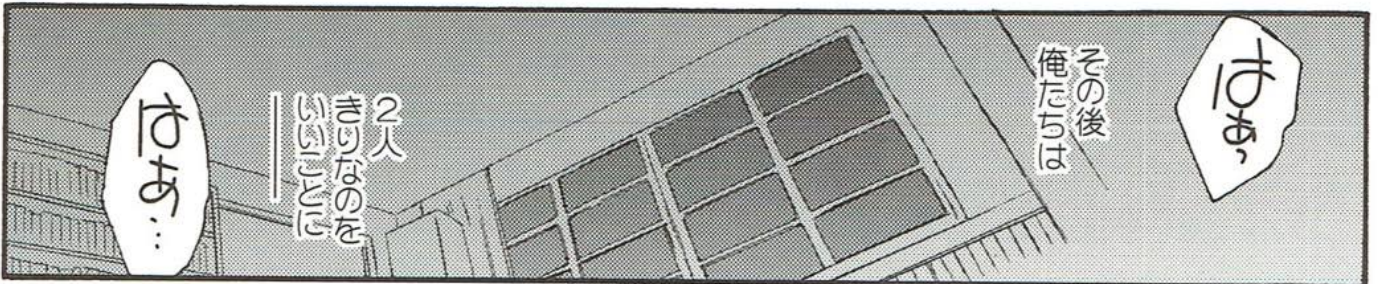
こ…



いいわ
今日だけ
許すわ

わ、

わ、

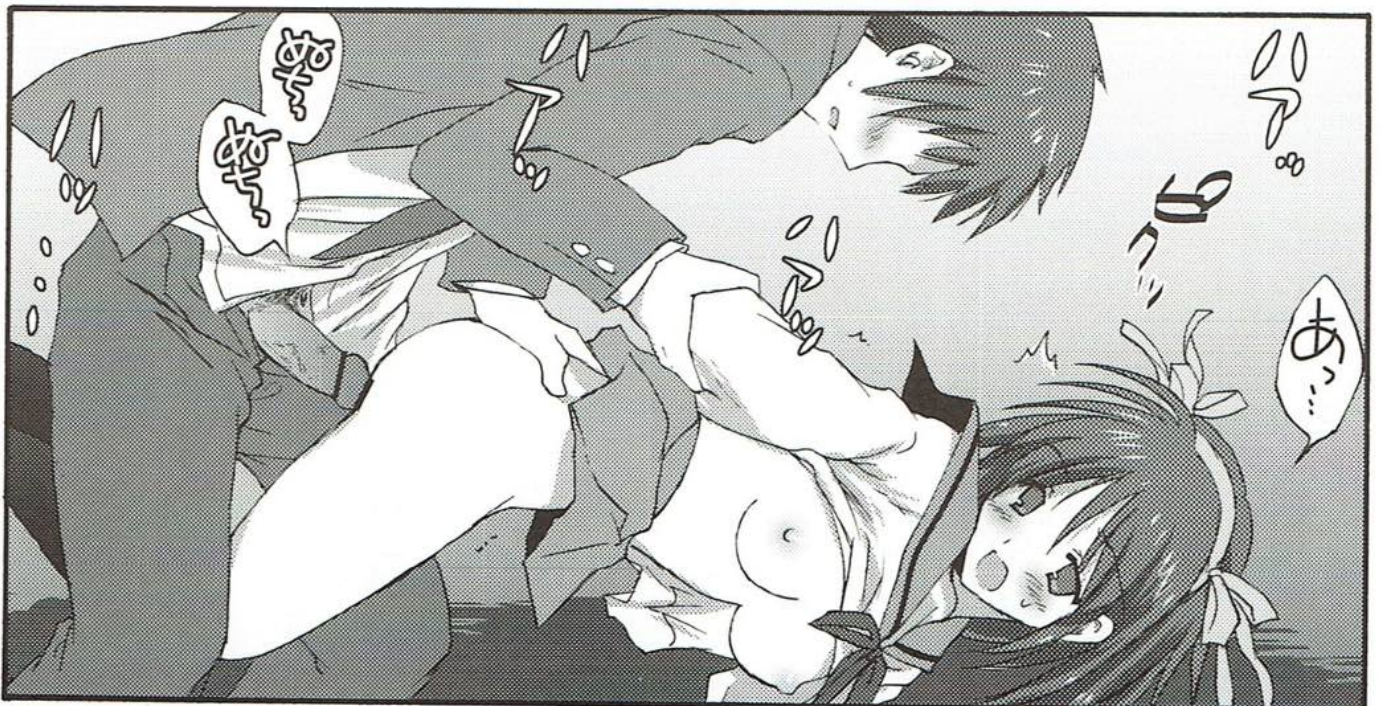


はあ、

その後
俺たちは

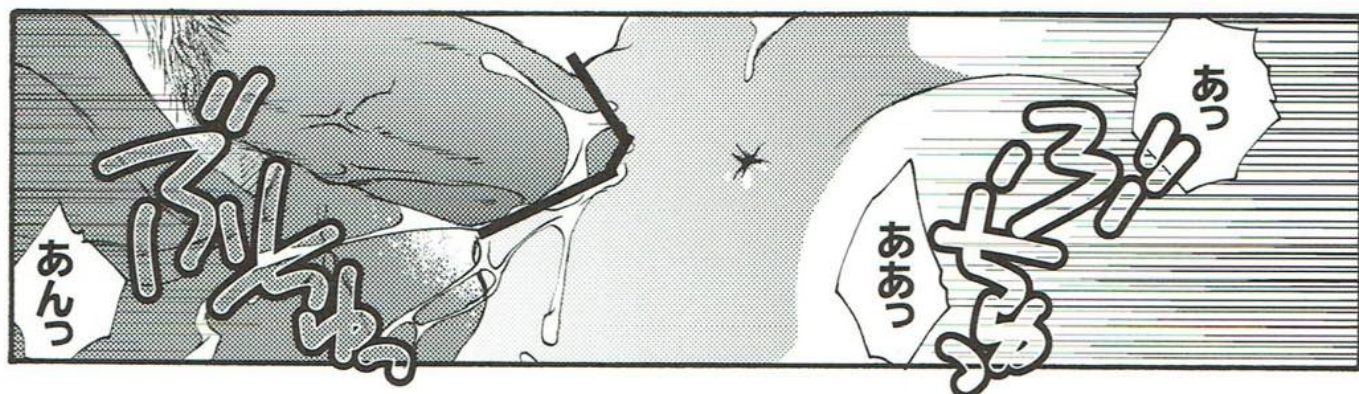
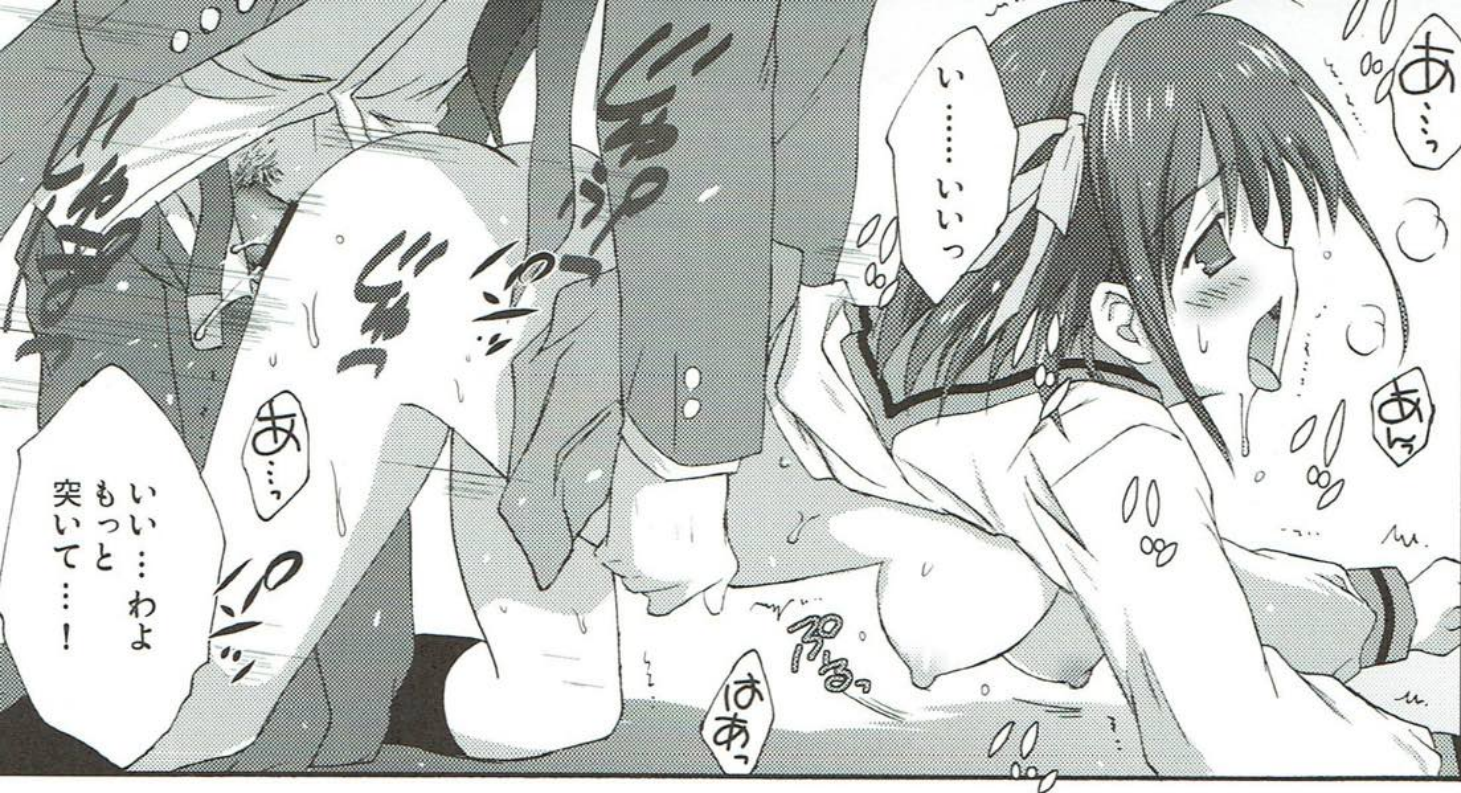
2人
きりなのを
いらい

はあ…

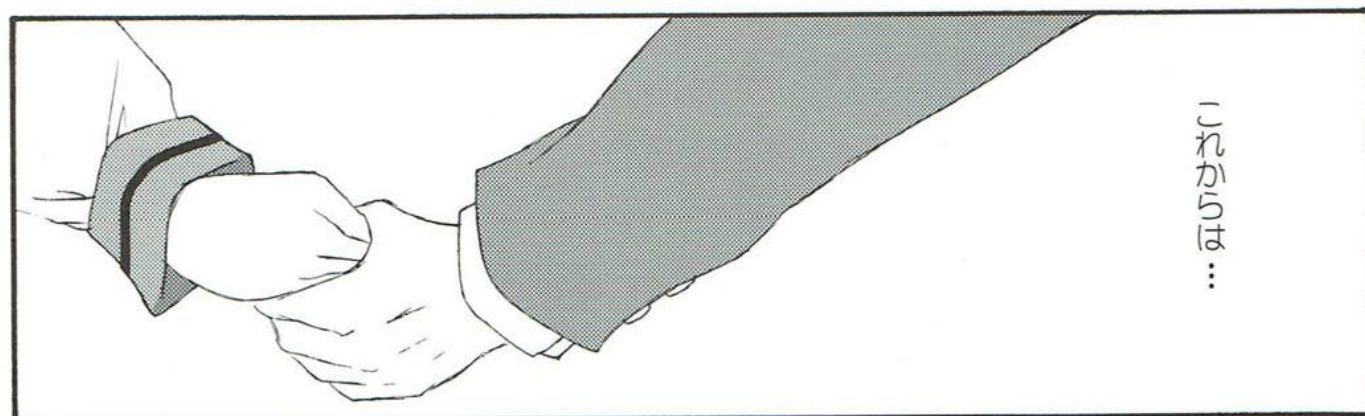
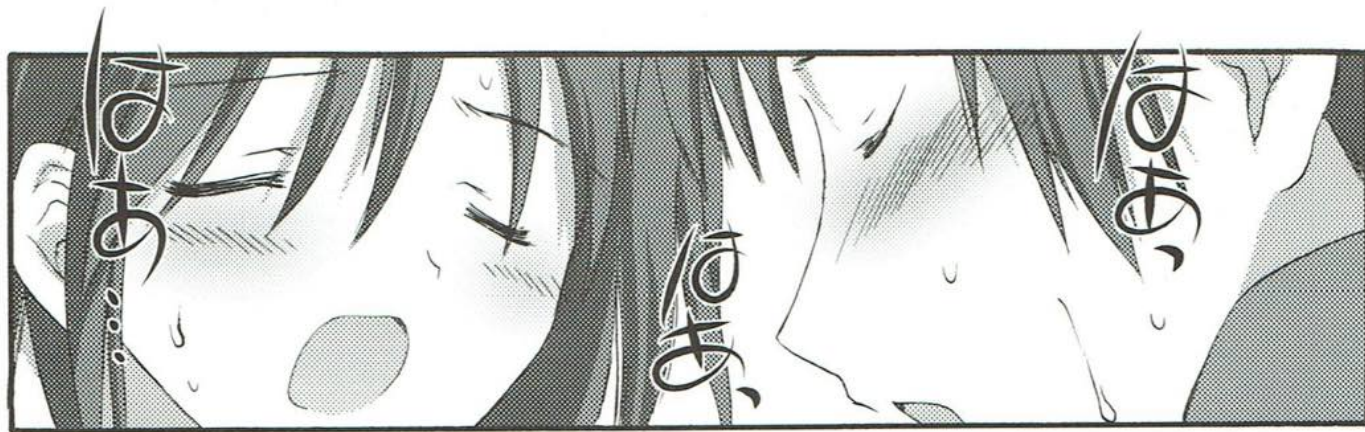


はあ、

あ…



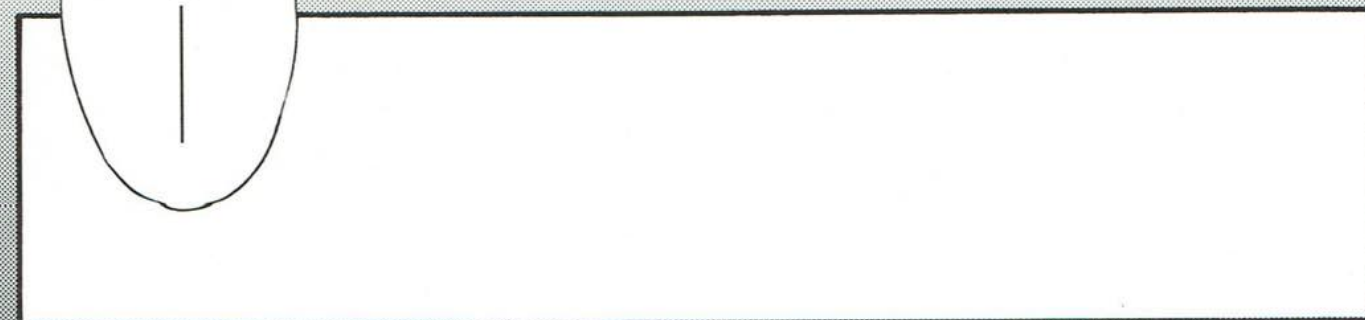




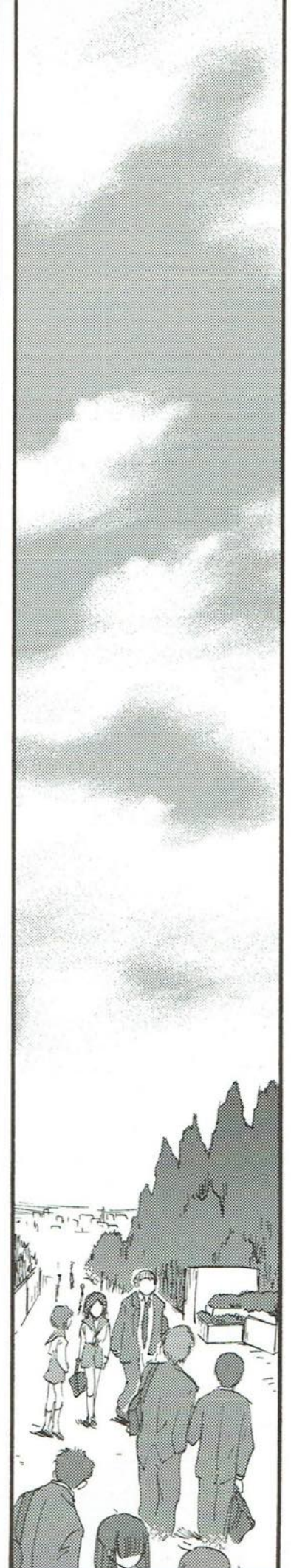
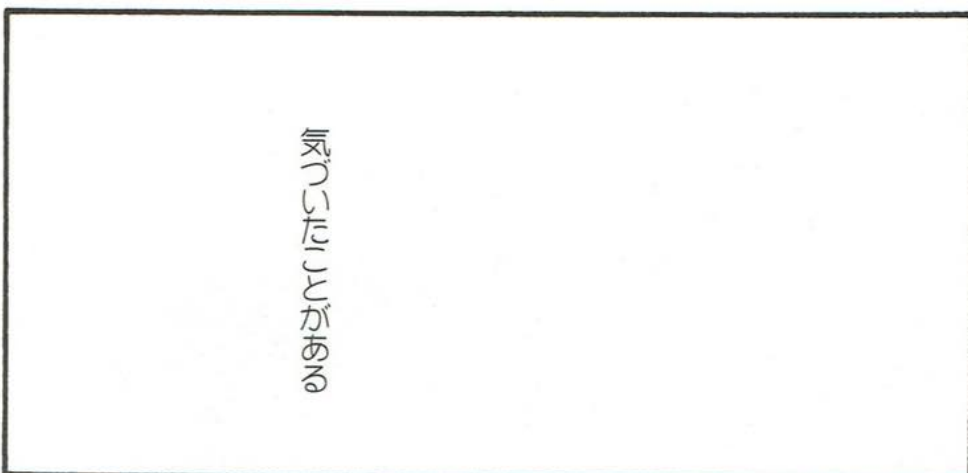
いだからね…



一緒に





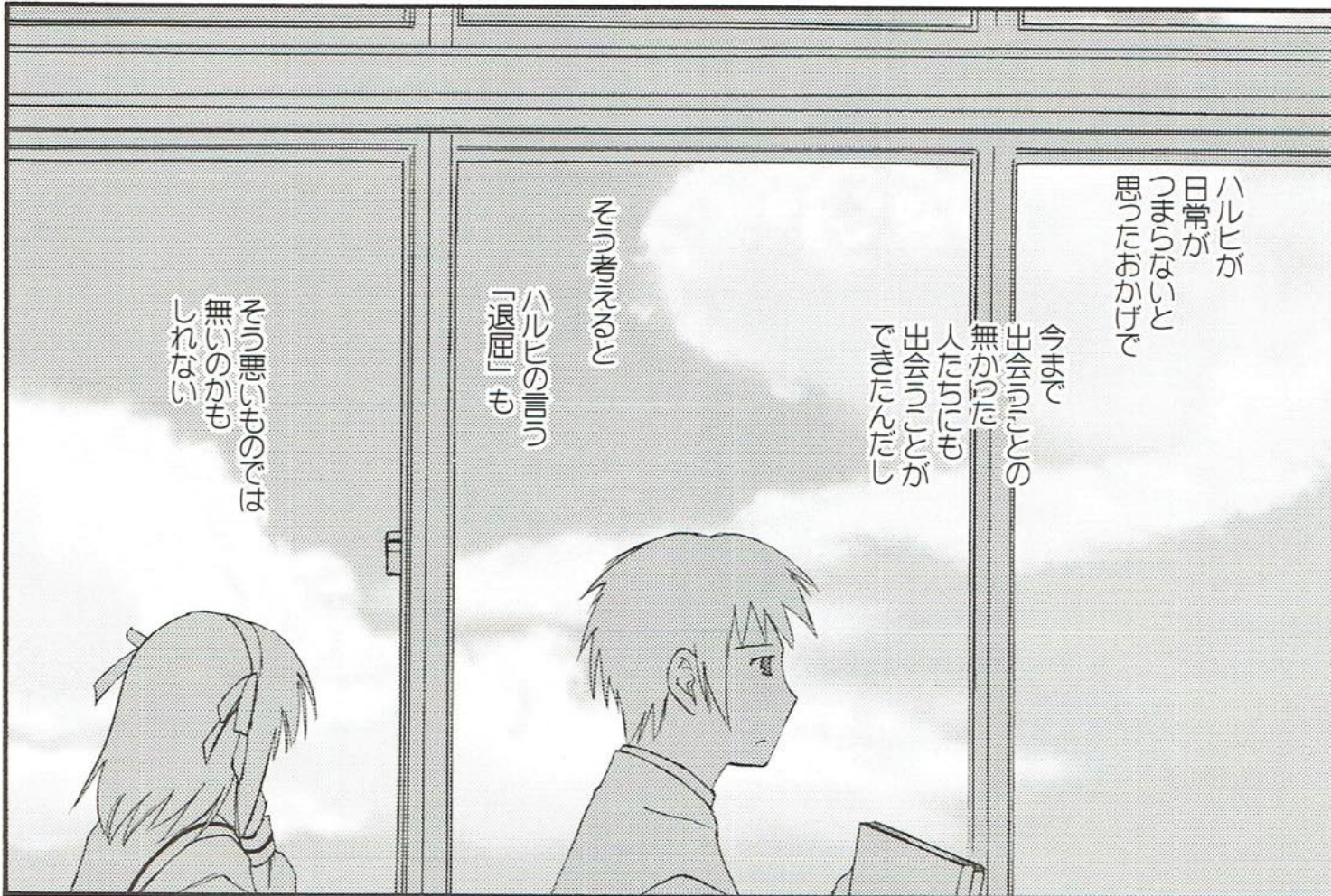


辛い時
苦しい時
楽しい時
笑える時

何気なく
過ぎていく
時さえも

次に起る
未来に
出会ったためには

ひとつも
欠かせない
要素に
なっていくのだと



ハルヒが
日常が
つまらないと
思ったおかげで

今まで
出会うことの
無かった
人たちにも
出会うことが
できたんだし

「お前さん」

「ハルヒの
「退屈」も

そう悪いものでも
無いのかも
しれない



.....



おーい
キョン!

あ
今行く



『 憂鬱の終わり 』

2008年12月30日発行

発行●こりすや

執筆者●こりす

印刷所●Comflex 様

連絡先●master@korusuya.kirara.st

Web サイト●<http://korusuya.kirara.st/>

※無断複製転載 Web アップロード禁止

※18歳未満閲覧禁止

※本書の内容はフィクションです



The end of Melancholy